

西宮えびす

平成二十五年 夏号

西宮神社 6月～12月行事予定

六月	十四日 御輿屋(おこしや)祭 十六日 夏越大祓
七月	七日 九時 沖惠美神社奉納子供相撲大会 夕刻から 七夕天の川 九日 境内末社・沖惠美酒神社 十時 境内末社・沖惠美酒神社 (あらえびす神社祭) 十六日 境内末社・沖惠美酒神社 十八日 境内末社・沖惠美酒神社 二十日 境内末社・沖惠美酒神社 二十八日 境内末社・沖惠美酒神社
八月	二十日 境内末社・沖惠美酒神社 二十八日 境内末社・沖惠美酒神社
九月	十九日 十八時 観月祭 二十日 十七時 西宮まつり 宵宮祭 十八時 奉納演芸会 二十日 十七時 例祭 二十五日 境内末社・沖惠美酒神社 二十八日 境内末社・沖惠美酒神社
十月	九時二十分 宮水まつり (市内久保町の宮水発祥の地記念碑前) 十二時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ 十三時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ 十六日 十時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ 二十日 十時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ 二十五日 十時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ 二十八日 十時 西宮酒くらルネサンスと食フマツ
十一月	二十三日 十時 天長祭 二十七日 十時 煤払い 十時 逆さ門松 三十日 十六時 大祓 十八時 除夜祭
十二月	二十三日 十時 天長祭 二十七日 十時 煤払い 十時 逆さ門松 三十日 十六時 大祓 十八時 除夜祭

西宮神社会館 万燈籠特別ダイナー 『灯の夕べ』のご案内

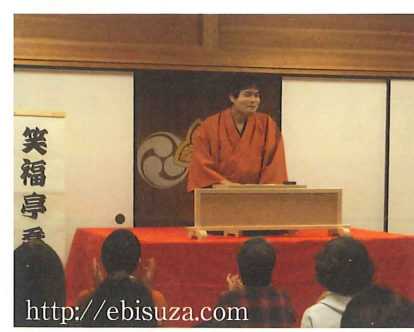
夏祭りの日、夕刻に行われる「えびす万燈籠」では、えびすの森は雅楽のしらべの中、ろうそくの炎が揺れる幻想的な世界に変わります。素敵な夏の一夜を西宮神社会館の特別ダイナー「灯の夕べ」でぜひ堪能ください。今回は、リーガロイヤルホテルのお料理とともに、古式ゆかしい舞や、ギターデュオによるアコースティックライブもお楽しみください。



- 和風前菜 ●鯛の御造り仕立て私流 ●茶碗蒸し
 - サーモンとトマトのオーブン焼き ●香草風味粒マスタードソース
 - モンジャーステック
 - ローストポークリブロイロ風オマージュ ●温野菜と共に
 - 季節のフルーツ ●白ワインセラー
 - コーヒー ●パンとバター
- 日時 平成二十五年七月二十日(土)
午後六時半受付 午後六時～
- お一人 税込五千元(限定百名様)
- 申し込み 神社会館 0798-233-3311
締切 七月十日(水)まで

戎座 人形芝居館

平成十七年に設立され、二十年からは中央商店街に拠点を置き、えびすかき復活に取り組んでこられた「戎座人形芝居館」諸般の事情により平成二十四年末を以ってこの場所での活動を休止することになりました。当面は西宮神社社務所和室等を使い、お稽古、招福寄席など継続しています。再び独立した建屋で活躍できますよう引き続き応援して上げて下さい。尚、華道、茶道、狂言、人形芝居などのお稽古日、フコイオン(500円)招福寄席の開催日については、左記の戎座ホームページ又は電話0798-391-1723(毎とも)へお問合せ下さい。



編集室から

今年は伊勢の神宮の二十年毎の式年遷宮の年であり、出雲大社においても六十年ぶりの本殿遷座祭が執り行われ、当社では、えびす御神影札の配札権を賦与されてから三百五十年の記念の年にあたります。

五月六日の諸国講社太々神樂祭には、全国各地でえびすさまのお札をお配り頂いている方が多数参列され、石見神樂えびす舞もご奉納になりました。講社の配札人の方々には、連綿とえびす信仰を受け継ぎ、その宣揚に努めて頂き今日が迎えられましたことを厚く御礼申し上げます。

氏子、世話人、御崇敬各位におかれましても、今後ともえびすさまの御加護のもと、平安なお暮らしが続きますよう祈念申し上げます。

twitterで西宮神社の最新情報を
http://twitter.com/nishi_ebisu

西宮神社 公式サイト <http://nishinomiya-ebisu.com>



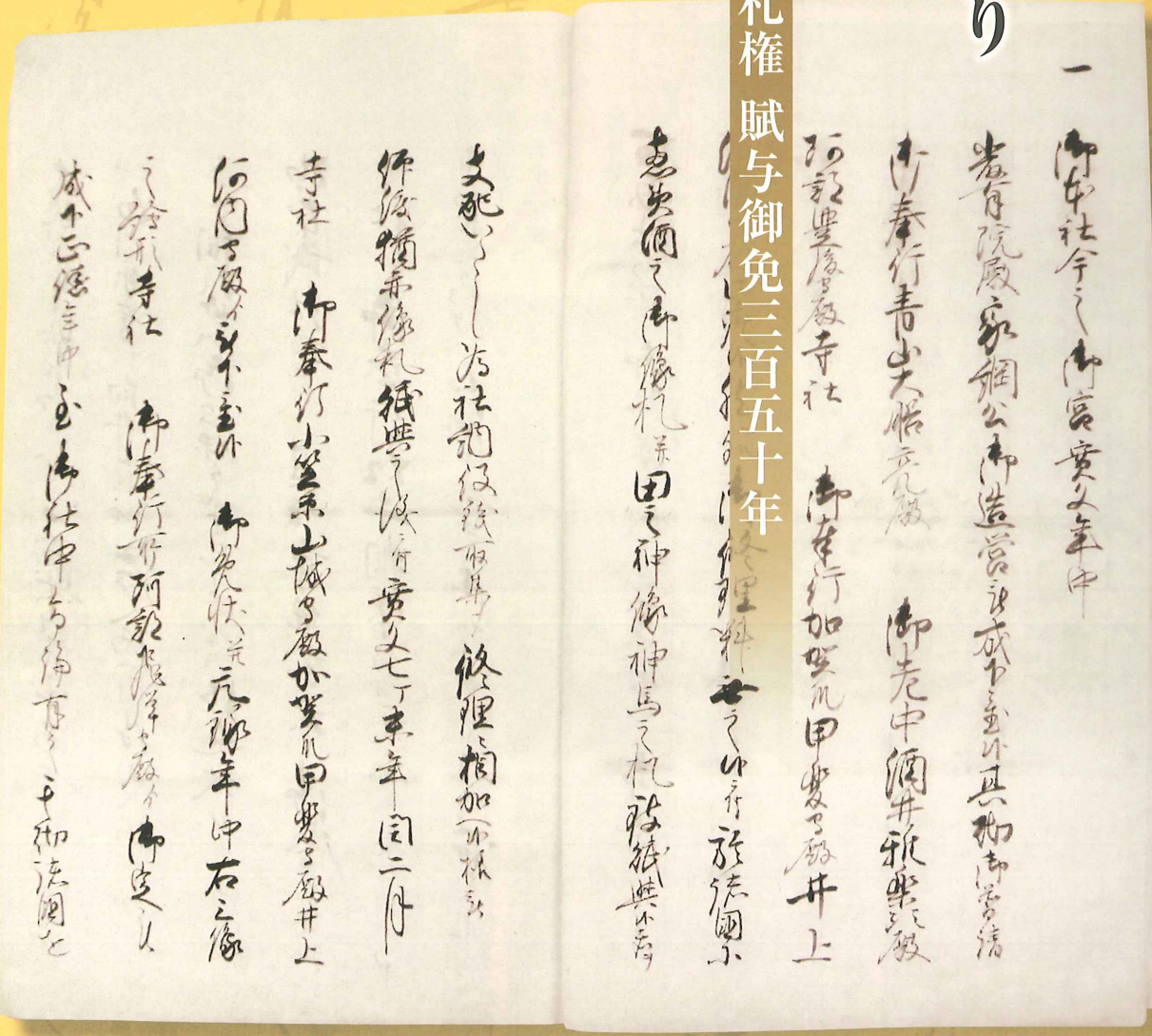
西宮神社 公式サイト QRコード

夏えびす あらえびす夜まつり

文化研究所だより(三)

西宮まつり

奉祝・えびす御神影配札権 賦与御免三百五十年



えびす NISHINOMIYA EBISU 平成二十五年 夏号

西宮えびす 平成二十五年夏号(通巻第三十九号) 平成二十五年六月一日 発行
発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話 0798-391-0321 FAX 0798-391-0320

編集/文化課 印刷/小西印刷所

文化研究所だより(三)

江戸時代における西宮神社の社領

今回は、西宮神社の経済的基盤の一つである、社領についてお話したいと思います。

まず前提として、江戸時代の寺社領についてご紹介いたします。江戸時代、寺社領は大きくわけて三種類ありました。一つは朱印地と呼ばれるもので、徳川将軍の朱印状(写真参照。朱

印を捺印、もしくは花押。花押の場合はとくに判物ともいう)をもって安堵された寺社領を指します。二つには黒印地、それぞれの地域を治める大名が発給する黒印状(黒印を捺印、もしくは花押)をもって安堵された寺社領です。三つには除地と呼ばれるもので、証文の類は発給されませんが、年貢を免除された土地です。除地は措くとして、朱印地と黒印地では当然朱印地のほうが格上で、寺社にとって経済的基盤としてのみならず、格式の高さを示す一種のステータスでもありました。

江戸山王権現社宛徳川家光朱印状
日枝神社(東京都千代田区所蔵)

さて、西宮神社は朱印地かといえばそうではなく、

元和四年(一六二八)に時の尼崎藩主戸田氏鉄より社領三十石安堵の黒印状を与えられて以降、戸田氏→青山氏→松平氏と藩主家がかわっても歴代藩主による三十石の黒印地安堵が継続します。原本は現存しませんが、寛永十二年(一六三五)に青山幸成より下された黒印状は以下のようなものです。

撰州西宮社領其村之内高三拾石先代寄附之旨任先判不可有相違候、弥々燈明勤行懈怠在間敷之條仍而如件

寛永拾貳年

乙亥十一月日

青山大蔵小輔

幸成(花押)

西宮神主

文中「其村」とは西宮町のこと、形式的には西宮町のうち三十石を安堵されたわけですが、実際は特定の土地が与えられたわけではなく、西宮町庄屋より三十石の土地の年貢分(三割)である九石余の米が神社へ渡されていました。歴代藩主の安堵が継続したと申しましたが、黒印地である限り最大の問題となるのは藩主家お国替えの際です。宝永八年(一七二二)に青山氏が信濃国飯山へ転封、遠江国掛川より松平氏が入部しますが、その際、時の神主吉井良信は同じ尼崎藩領の生田神社や長田神社などの動向を見つづ藩役人へ度々出願するなど、新藩主松平氏からも黒印地を安堵してもらおうと懸命に努力しています。

ではなぜ西宮神社にはより格式の高い朱印地

安堵がなされなかったのでしょうか。その理由の一つとして、幕府による朱印地安堵の時期と安堵のあり方が関係します。まず、寺格・社格が高ければいつでも朱印地が認められたわけではなく、三代将軍徳川家光の時代、慶安元年二年(一六四八・一六四九)に全国的に多くの寺社に対して新たに朱印地安堵がなされますが、同四年四月に家光が死去したため、その時点で打ち切りとなります。そして、以降江戸時代を通じて新たに安堵が認められることはほとんどありませんでした。また、この時は神主・住職本人が江戸まで行き幕府へ申請することが条件でした。そのため折悪しく病気や高齢で申請を断念、そのまま朱印地を認められなかった寺社もみうけられます。西宮神社の場合、史料に「社司等無調法三而、御朱印之御訴詔ヲおくれ候故、武家御領相成」とみえ、どうやら申請が遅れてしまったようです。ですから、幕府巡見使が来社の際「御社領御朱何程有之社」「社用日記」宝永七年五月十七日(条)かと尋ねるなど、由緒ある大社でもあり、朱印地を有すると認識されていたようです。

西宮神社において、朱印地のかわりに神社維持費用として四代將軍徳川家綱の時代に幕府から認められたのが、御神影札頒布権であったわけです。しかし、結果的にはこの権限を得たことがえびす信仰と西宮神社の名を全国に広める大きな役割を果たし、現在も各地で頒布いただいている方々とのご縁にもつながっているわけですから、神社にとってはまさに「塞翁が馬」であったといえるでしょう。

(西宮神社文化研究所主任研究員 松本和明)



境内に咲く
花々



①社務所中庭の椿 3月26日 ②神池 雪柳 3月27日 ③神苑 夜桜 4月1日 ④六英堂 枝垂桜 4月9日 ⑤梨の大木 4月21日

西宮神社えびす御神影配札権 賦与御免より三百五十年



大正15年 国宝に指定された 寛文3年造営の旧本殿

当社は戦国時代、幾度か戦火に遭い社殿を失うことがあり、慶長八年（一六〇三）には豊臣秀頼公による造営が開始され、慶長十四年、社殿が竣成されました。表大門は、翌九年に出来たとされています。しかし承応二年（一六五三）、再び社殿焼失の由、記録されています。



寛文三年（一六六三）、徳川四代將軍 家綱公の御造営に

より本殿が再興され、以後の社殿造営維持のために夷像札、田の神札、神馬札の配札に関する独占的特権を幕府から賦与されるようになりました。寛文七年には関東一円で大國像札の配札を行っていた舞太夫との諍いにも幕府の裁許により決着がなされ、以後永く幕末まで御神影の版権が保障されました。



江戸時代・文政年間頃の御神影(長野県・館林家蔵)

賦与御免より三百五十年の記念すべき佳節と成ります。

今年の五月の諸国講社太々神楽祭は、特に三百五十年記念の神楽祭として石見神楽「恵比須」も奉納され、昨年に創始されました「御神影頒布始祭」を厳修継続して行くことも確認されました。

本号表紙に掲載した写真は、江戸時代に相模国現在の神奈川豊原沢近辺にて御神影札を頒布していた家に伝来した「撰州西宮御本社御由緒略」という史料の二節です。寛文年中（寛文三年）の本殿造営に際し、幕府老中酒井雅楽頭忠清らの命により、諸国にて夷像札田の神札神馬札の配札を行う者たちを統括し、彼らから役銭を徴収する権限を与えられたこと、またその後、寛文七年には御免状を、元禄年中には前記三種の札の絵形雛型を、それぞれ幕府寺奉行より下されたことが記されています。

えびす御神影配札権 賦与御免三百五十年記念 諸国講社太々神楽祭を斎行

五月六日、爽やかな晴天下、新緑のあざやかなえびすの森を背後に望み、祭典は厳肅の内に斎行されました。

七十名余の全国各地の配札人の方々が参列、石見神楽「恵比須」も奉納され、えびすさまもさぞかしお慶びの事と存じます。



石見神楽とは、島根県西部石見地方の浜田市を中心とする地域に、古くから伝えられている里神楽で、神社の祭祀に夜を徹して奉納される伝統芸能です。その起源は諸説ありますが、石見地方において、室町時代後期には既に演じられていたと言われています。

石見神楽を大きく分けると、各種の採り物（扇子、幣、刀、鈴など）を持ち仮面を着けずに舞う「儀式舞」と、神様や鬼などの仮面を着けて舞い、物語性のある「能舞」とに分けられます。今回ご奉納頂いた「恵比須」は能舞で、演目は他に三十以上あります。



石見神楽「恵比須」

夏えびす

七月七日(日) 夕刻〜午後九時

七夕天の川

七夕の日の夜、神池には水面にたくさん星がゆらめき、天の川を作ります。
みなさんの願い事を書いた短冊を結びつけた笹竹も立てられます。
お願いごとが叶いますように……



七月七日(日)

午前九時〜(幼稚園の部)
午後一時〜(小学生の部)

奉納

子供相撲大会

あらえびすさまの力強い御魂を賜りますようお願い。
奉納子供相撲大会が行われます。
幼稚園以上の男女をグループごとに分け競います。
入賞者はあらえびす神社へ奉告の参拝をし、拜殿前に名札が掲げられます。

七月七日(日)、九日(火)、十日(水)、及び二十日(土)

風鈴市



七月九日(火)・十日(水)

午後四時〜午後九時

あらえびす夜まつり — 荒戎麦酒祭

あらえびす神社の例祭日に合わせて三日間行われます。境内松林を中心に、エビスビールを始め、門前町の飲食店が軒を連ねます。



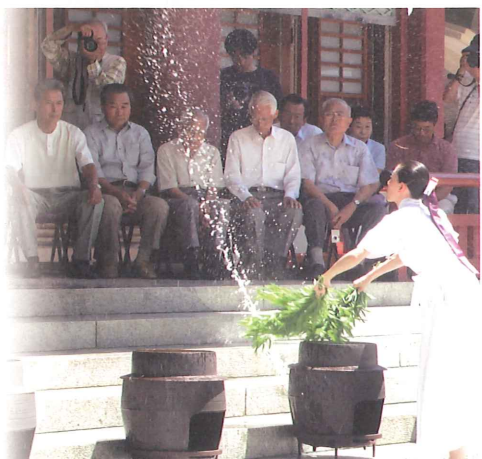
荒戎麦酒祭

七月二十日(土)

午前十時

夏祭り

暑気払い、無病息災を祈願するお祭りです。祭典の後、拜殿前で湯立神樂が行われます。

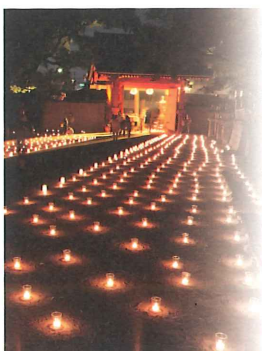


湯立神事

七月二十日(土) 午後六時

えびす万燈籠

境内三百三十基の石燈籠と約五千個のろうそくに、神火が灯され、境内は幻想的な雰囲気になります。



あらえびす神社とえびすねぶた

なぜ「夏えびす」 あらえびす夜まつり」なの？

— 沖恵美酒神社のこと —

境内末社・沖恵美酒(あきえびす)神社、別名荒戎(あらえびす)神社は、西宮町史(大正十五年刊)に由れば「元市庭町(西国街道より半町許南の田圃(本社より西南方現今字洗戎中)にありしを、明治五年境内に移し)なり。」とあります。

室町時代の日記などには、「奥戎「荒戎社」の記載があり、奥、沖、荒、洗、又は「これの何れか二つが付いた形が見られ、今日では通称「あらえびすさん」と親しまれて、えびすさまの荒魂(あらみたま)を祀っていると、言われています。古地図によると、西宮神社の西を南に流れていた荒戎川が、現在の荒戎町あたりで東に折れるその西南に描かれているのを見ます。今ではその由緒、元の場所などわからなくなっていることが多いですが、本殿第一殿のえびすさまは、和魂(にぎみたま)、沖恵美酒神社(荒戎神社)は荒魂、「二つながら」ご参拝頂き、「ご加護をお受けいただきたい」と思っております。そこで、正月十日えびすに対して中元七月のえびすさまは「夏えびす」の月間として七月十日の沖恵美酒神社祭を中心、二十日の本社夏祭・万燈籠を併せ、様々な行事も行い、特に荒えびすさまの荒魂の御力を授けて頂きたいと思っております。尚、沖恵美酒神社の現在の社殿は、昭和六十三年に東京えびす講の御芳志により再建されたものです。

七月十日(水) 午前十二時

沖恵美酒(あらえびす) 神社祭

祭典は、社殿の再建にご尽力された東京えびす講を始め、多数の参列者のもと、厳肅に執り行います。

西宮まつり

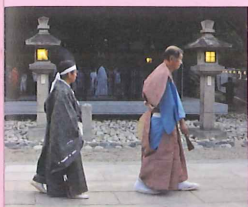
平成二十五年九月二十一日(土)〜
二十三日(月・祝)

陸渡御

午前十時〜
於…西宮神社・安井地区

神幸行列徹底解剖

渡御祭は平安時代末期頃の書物にも記されている歴史のある神事です。陸を神輿を中心に約二百名の神幸行列を組み進む陸渡御と、海上を神輿を載せた御座船を中心に十数隻の船団にて神幸する海上渡御との二つがあります。



①氏子奉幣使
氏子を代表してご神前に幣帛をお供えします。



②猿田彦
瓊瓊杵尊(にぎのみこと)が高千穂に降臨した時、高天原と葦原中国の間で出迎え、道案内をした猿田彦神(さるたひこのかみ)を模しています。神輿の先導役として奉仕しています。



③童女
小学校高学年の八人が、今年の担当氏子地区より選ばれます。御旅所では神楽「豊栄の舞」を奉奏します。



御旅所祭
於…松秀幼稚園
正午頃〜

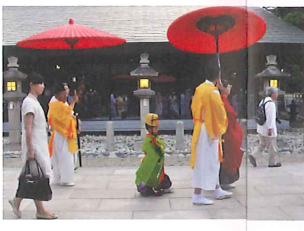


④八乙女
八乙女は氏子四地区の中から各地区二名ずつ選ばれ、十二単を着て奉仕します。



⑤隨身
隨身は太刀、弓矢を持ち神様を守る者として奉仕しています。
⑥福男
十日えびすで選ばれた福男は祭典に参加し、福をみなさんにお分けしています。

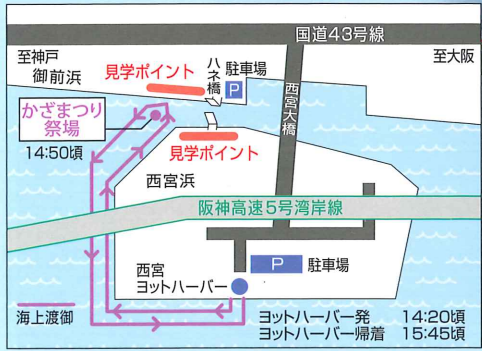
⑦鳴尾惣太夫
鳴尾の惣太夫こと中野亥之鷹さんは、鳴尾から当地までえびすさまをお連れした漁師さんの子孫です。
⑧神輿
えびすさまをお載せた神輿は氏子を中心とした約百名の方々によつて担がれます。



⑨宮司と童男
童男は担当地区から選ばれた小学生以下の男の子が奉仕します。

海上渡御

本船団 渡御出航 午後二時二十分頃
かざまつり 午後二時五十分頃
分船団 午後一時十分頃
えびすさまと縁の深い和田神社・三石神社へ産宮船が向かいます



西宮まつり 日程

九月二十一日(土)
宵宮祭 午後五時〜
宵宮祭 於…本殿
奉納演芸会 午後六時〜
於…本殿西広場

九月二十二日(日)
例祭 午前十時〜
於…本殿
稚児行列 午後三時〜
於…西宮中央商店街
稚児行列

九月二十三日(月・祝)
陸渡御 午前十時〜
於…本殿
発興祭 正午頃〜
於…松秀幼稚園
海上渡御 (左記の通りです)
還御祭 午後四時五十分
於…本殿

「若戎会」の
氏子青年会
だんじりが三日間を通して市内を練り歩きます。
※各行事は天候等により変更となる場合がございますので予めご了承下さい。
※変更の場合はホームページにて配信致します。



こども樽みこし
午後五時半〜
於…西宮中央商店街

春休み子供会・えびすのホト観察会



西宮神社の境内は、甲子園球場とほぼ同じ面積の約二、七五〇坪、四一、〇七〇㎡で、北西部約三、九二〇坪、一三、〇〇〇㎡の森は、昭和三十六年兵庫県より天然記念物に指定されています。

平成十五年から神戸大学大学院森林資源学研究室の石井弘明准教授を中心とするグループにより社叢の植生管理の方向性が探られ、平成十六年には外来種のシユロの除去作業や枯枝の伐採作業が、平成十九年からは社叢内の楠木から採取した挿し木苗の育成観察などが進められてきました。

昨年三月、この森の楠の太木から採取された挿し木苗を元に戻し植樹する試みを、主に地元の小四、五、六年生の子供らとともに「春休み・えびすの森観察会」として開催しました。今年も三月二十九日午前十時より、十三人の児童が参加し、保護者なども見学する中、六英堂にて第二回観察会を開会。先ず主催者・吉井宮司挨拶、次に神戸大石井先生より「えびすの森を守る」のスライドを交えた解説、十時から森林に入り、樹木の計測、観察などを行いました。

昼食・休憩後、十三時から楠の苗木の植栽を行いました。神社に戻ってきた挿し木苗四本を、境内南西角の一角の日当たりのある場所に植え灌水しました。最後に全員で苗木の生長を祈り一礼し、終了しました。



参加した子どもたち



日本学術振興会 「科学研究費助成事業」の開始

当社では、平成二十三年の本殿復興五十周年の記念の文化事業として『西宮神社御社用日記』の翻刻出版を進めてまいりましたが、これに携わった研究者らが、この度独立行政法人日本学術振興会の助成を得て左記の事業を実施することになりました。付きましては研究代表者である西田かほる様にその趣旨についてご説明いただきました。

今年度より四年間にわたり、国の補助金である科学研究費助成事業(基盤研究(B))として、「近世の芸能的宗教者・勸進宗教者の組織編成と地域社会」を行うことになりました。西宮神社には現在刊行中の『御社用日記』のほかに、神社や宮司家などが所蔵する貴重な史料があります。本研究は、これらの翻刻と分析を中心としつつ、全国各地で活動した夷社人(えびすじん)をはじめとする宗教者の調査を行うことにより、江戸時代における宗教者の社会的位置づけや存在意義、さらには人々にとって信仰とは何かということを考えるものです。また、西摂地域の藩・村・町といった地域社会にも目を向け、その中における寺社の役割や地域的特質を明らかにすることも目的としています。最終年度にはシンポジウムを開催し、研究の成果を公表する予定です。この事業の進展によって、歴史学のみならず、民俗学・宗教学・芸能史・地域史など、様々な研究に寄与することができるものと考えております。

今後、西宮神社および文化研究所のご協力を得て研究を進めてまいりますので、本事業に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

(研究代表：静岡文化芸術大学文化政策学部教授 西田かほる)

夏休み子供会・神社体験学習会 を開催します

夏休みは
西宮のえべっさんに来て、
神主さんや巫女さんになつて見ませんか。
学校やお家では聞けないお話も
聞くことが出来ます。
お待ちしております。

●日時：七月二十一日(月)、二十三日(火)

午前九時～午後三時

●場所：西宮神社 社務所

●対象：西宮市内の小中学生

四、五、六年生

男女各十人

●内容：礼儀作法の基本、神職作法、巫女神楽、昔話、道徳講話など

※申込み詳細は、六月中旬頃に決まり次第、社務所受付、又は公式ホームページでお知らせします。



平成24年の神社体験学習会

